# 学校大好きあいちゃん

## ―見えにくい子どもの支援に携わる先生方にむけて―

愛知教育大学

特別支援教育講座　准教授　相羽　大輔

aiba@auecc.aichi-edu.ac.jp

# 学校大好きあいちゃんの概要

弱視学級の先生方からの要望を受けて制作されたデジタルコミックタイプの教材です。周囲の子どもたちが弱視児との関わり方を学ぶために役立てます。福祉教育、見えにくい子どもたちにについて知ってもらうための理解教育等にお役立てください。

学校大好きあいちゃんの動画はこちらです!!

学校大好きあいちゃんの動画はこちらです!!

# 指導案サンプル

## 指導案

1．単元名　　僕、私と弱視のお友だち
2．ねらい　　物語と体験を通して弱視について知り、弱視の友だちとのかかわり方を考えられるようになる。
3．本時のめあて　弱視のお友だちについて知ろう
4．準備物　　児童：筆記用具、クーピー
5．本時の活動

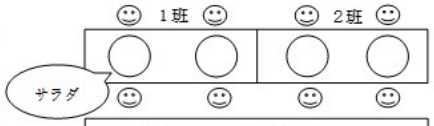
| | 活動内容 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>（5分） | 1 障害と聞いて思い浮かぶことや知っていることを口頭で話す。<br>（もし可能であれば、学校や学級に在籍する弱視児が自分の見え方などを含めて自己紹介をする。） | ・はじめに児童から障害について知っていることを引き出し、その後で、「弱視」についての話を引き出せるようにする。<br>本時は「弱視」についての学習をすることを伝える。<br>（弱視児が発表を行う際には、自信をもって発表に臨めるように原稿を用意しておく。） |
| | めあて：弱視のお友だちについて知ろう。 | |
| 展開<br>（70分） | 2 弱視について知る。 | ・デジタル絵本（「学校大好きあいちゃん」）を見せる（12分）。 |
| | 3 弱視のシミュレーション体験をする（各10分程度×4）。 | ・体験は区切りの良いところでトイレ休憩などをはさむ（10分程度）。<br>・1人ひとつずつシミュレーションメガネを配布し、これから体験活動に移ることを伝える（5分）。<br>・全体験はシミュレーションメガネを着用して行う。<br>・シミュレーション眼鏡は指示があるまで着用しないこと、体験中に気持ち悪くなった場合には申し出ることを伝える。 |
| | A.配膳をする。 | ・配膳の難しさやコントラストによる見え方の違いに気が付けるようにする。 |
| | B. ぬり絵をする。 | ・線の太さの違う絵を塗ったり、太さの違うペンで書くことを通して、見やすさの違いに気が付けるようにする。 |
| | C. 視覚補助具を使って見る。 | ・単眼鏡などを使うことで見えやすくなることを知ると同時に、補助具は弱視児にとって大切なものであることを感じられるようにする。 |
| | D.グループワークをする。 | ・「こそあど」を使った表現は分かりにくく、具体的に説明することの大切さに気が付けるようにする。 |
| まとめ<br>（15分） | 4本時の活動を通じての感想や疑問に思ったことなどを発表する。<br>（もし可能であれば、弱視児が答えたり、話したりする。） | ・弱視児の思いと本時の学習を通じて考えたことや疑問に思ったことなどをクラスで共有できるようにする。<br>（弱視児が話しやすいようサポートしたり、今後の生活でお願いしたいことなどを弱視児と一緒に原稿にまとめておく。） |

## 弱視の疑似体験

1・2班 A→B→C→D　3・4班 B→C→D→A　5・6班 C→D→A→B　7・8班 D→A→B→C　※各班8～9名

課題A（配膳）

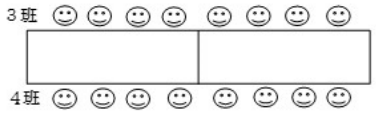
・シミュレーション眼鏡を着用して、トングでお皿にサラダをよそう（5分×2回）。
①自由にお皿によそってみる。
②様々な種類の具（ブロック）を入れることに気をつけてよそってみる。
③全ての具をバランスよくよそうことにチャレンジしてみる（周囲の児童はよそいやすいように工夫して声がけしてよい）。




・各班の児童を前半後半に分ける。
・2つの班を合わせて前半で8名、後半で8名の児童が左の①～③の手順で体験活動を行う。

課題B（ぬり絵）

・シミュレーション眼鏡を着用して塗り絵をする。初めに細い輪郭線の絵を配布して塗る（2分）。その後、太い輪郭線の絵を塗って（2分）、どちらが塗りやすいか比べる。
・ペアになって行う。片方の児童だけシミュレーション眼鏡を着用する。着用していない児童が、課題の文章を鉛筆で書く。それをシミュレーション眼鏡を着用している児童に見せる。その後、太いペンで書いて同様にシミュレーション眼鏡着用の児童に見せる。役割を交代してもう一度同じ活動をする（3分×2回）。




・2つの班が向かい合うようにする。
・塗り絵は一斉に行う。
・文章の課題をやる際には、向かい合った児童同士ペアになって行う。

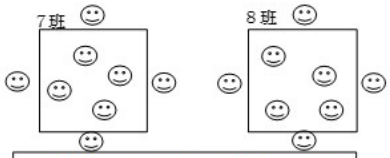
課題C（視覚補助具）

・最初は、全員シミュレーション眼鏡を着用して板書を見る体験をする。遠くから見始めて見えるところまで徐々に黒板に近づいて行く（2分）。その後、2人1組になって単眼鏡を使って、ピント合わせを行いながら板書を見る。交代して行う（4×2回）。

・黒板のある位置を前方として、1番後方で行う。
・単眼鏡は2人で1本使う。

課題D（グループワーク）

・チーム対抗のゴミ拾い競争を行う。始めに、誰がどのゴミを担当するのか役割を決める（2分）。その後、チームごとにペアを作る。片方がシミュレーション眼鏡を着用して担当のゴミカードを拾う。もう片方の児童は、決められた場所からペアの児童に指示を出す。前半後半で役割を交代して行う（3分×2回）。最後にチームごとの得点を出す（2分）。




・床に養生テープで枠を2つ作る。その中にゴミカードを配置する。
・4人が枠の中でゴミを拾い、そのペアは枠の外から指示を出す。

# 安価にできる体験キット（ぼやけ）

弱視疑似体験キットのレシピ（ぼやけ眼鏡）

**【準備するもの】**

1．プチプチ or 透明のクリアファイル or 透明のクリアポケット

2．花粉症用等の眼鏡（100 円ショップで買えるだて眼鏡で可能です）

3．テープ（メンディングテープがおすすめ）・ハサミ

**【作り方の手順】**

1．体験用に用いるレンズの型を作成します。花粉症用の眼鏡を準備できる人は、右目と左目に対応したレンズの型になります。花粉症用の眼鏡を準備できない人は、レンズの型を自分の顔の大きさに合うアイマスクのような形状にして切り抜きます。

※透明クリアファイルの場合は、L 字のつなぎ目を切り、片面（1 枚）を使ってレンズの型を切り抜きます。

※透明クリアポケットの場合は薄いので、ポケットを開かず、そのままレンズの型を作ります。そうすると、2 枚重ねのフィルムになります。

※プチプチの場合は 1 枚で使い、レンズ型を作成します。

2．花粉症用の眼鏡にレンズ型を張り付けます。メンディングテープを少しずつ使い、フレームにレンズ型が固定できるように貼り付けます。

※張り付ける際、フレームの内側、眼鏡の視界の方にテープが出てこないよう、できるだけ隅の方に、キレイに張り付けることをおすすめします。

※アイマスクのようにレンズ型を作成した場合には、レンズ型の両耳側に、テープで輪ゴムを固定して、眼鏡のような形状にします。

【完成品：サンプル】

# 安価にできる体験キット（狭窄）

弱視疑似体験キットのレシピ（視野狭窄カップ）

**【準備するもの】**

1．紙コップ（150cc 以上のものが望ましいです）

2．補修用シール（穴あけパンチの穴の補修用）

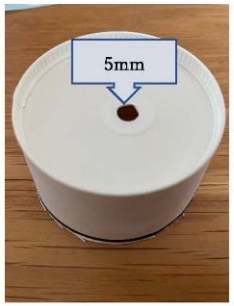
3．マジック・ハサミ

**【作り方の手順】**

1．　紙コップの底から 3cm ほどのところにマジックでぐるっと一周印をつけ、余分なところをハサミで切り落とします。

2．　紙コップの底の中心に適当な大きさの穴（直径 5mm～10mm くらい）をあけます。

3．　紙コップの穴の大きさをきれいな○にするために、補修シールを張り付けます。ここで使っているのは穴の大きさが 5mm のものです。

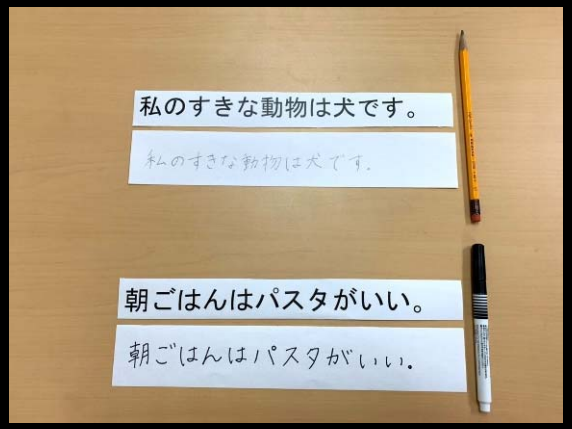



【補足】今回作成した視野狭窄の疑似体験は、厳密ではないものの、およそ、視野 20° のものです。手を前に伸ばしたとき（60cm くらい）手のひらをパーにすると、おおよそ、直径 20cm の円ができます。この範囲を視野角にすると、おおよそ、20° ということです。30cm くらいの距離からプリントを読もうとすると、10cm くらいの範囲が見えると思います。

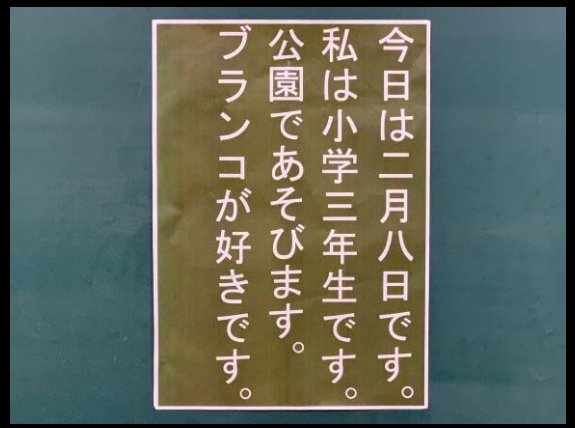
# 体験内容

配膳課題

色塗り課題

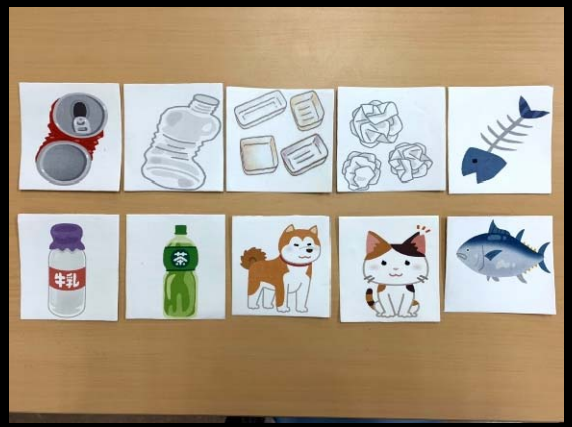



読み書き課題




黒板の内容

単眼鏡



グループワーク
ゴミ拾いカード

# 弱視児と仲良くなるための約束

「な」：名前を伝えてから話しかけよう。
※自分から話すためには、名前を知らないとね。

「か」：勝手にレンズを触らないようにしよう。
※補助具は大切な第二の目です。

「ま」：「手伝って」といわれるまで待とう。
※自他共にいえる雰囲気を作りましょう。

上手に友達としてのかかわるためのルールを見える子にも、見えにくい子にも伝えてあげましょう。

# 保護者の声

3学期になってもわが子は「今日誰と遊んだの？」と尋ねても、「わからない」と応えてました。
体験授業後、遠足に行ったときに、クラスの友達が話しかけてくれて、一緒にお弁当を食べてくれました。とても喜んでいました。クラスメイトの名前もたくさんいえるようになりました。うれしいです。